

# 新刊のご案内

新宿大腸クリニック

後藤利夫（昭63卒）

昭63卒の後藤利夫と申します。新宿で開業医をしております。30年前に父親が大腸がんになりましてから大腸内視鏡専門でやっております。大腸がんは年間5万人も亡くなる病気で10年前から女性のがんのトップなのに、大腸内視鏡検査を受ける人は4人に1人しかいません。内視鏡挿入時に痛いことがその最大の原因だと思います。1990年頃に物療内科の粒良邦彦先生（昭46卒）と田淵正文先生（昭59卒）に教わった方法は空気の代わりに水を入れる方法で麻酔を使わないのに不思議と痛くありませんでした。滑りがいいので押さなくても挿入できるのが一番の理由だと思います。検査中に水を入れるのが煩わしかったので足踏みスイッチ式のポンプの作り、1995年に特許を取りました。そのころは主に徳洲会病院の僻地離島で大腸内視鏡検査をやっておりました。午前中は飛行機で移動、午後は大腸内視鏡検査を365日やり続けました。多い日は25件ほど検査したこともありました。その後は徳洲会病院でこの「水浸法」を若い先生に教えました。ニカラグア、キューバ、ボリビアの先生にも教えました。日々の診療が忙しく学会発表をしませんのでこの方法は徳洲

会以外には広まりませんでした。いつか本にまとめようと10年位前から思っていました。が専門書を書いたことがなく、なかなか筆が進みませんでした。何度も書き直して、もう今書かないと一生書けないと思い、最後の力を振り絞りなんとか書き上げました。内視

鏡の専門家よりも一般医や家庭医などで胃カメラだけでなく大腸内視鏡もやりたいという医師を讀者として想定しています。一人でも多くの医師に検査をしてもらい、一人でも多くの方が大腸がんから救われることが願いです。『水浸法による無痛大腸内視鏡挿入マニュアル』B5版188ページ本体4500円。中外医学社から2016年4月発売。

水浸法による

無痛大腸内視鏡挿入マニュアル



最短3カ月で“無痛”大腸内視鏡がマスターできる!

きわめて苦痛の少ない大腸内視鏡挿入法——「水浸法」に最適化した挿入技術、「ワンバターンメソッド」を紹介する初の書籍。

中外医学社

## 求人募集広告掲載のお知らせ

鉄門だよりには、鉄門ご出身の先生がたによる求人募集広告（医師）を掲載することが可能です。広告掲載基準の詳細につきましては、編集部までメール・FAXでお問い合わせください。

広告担当：西岡

Mail:dayori@m.u-tokyo.ac.jp

医学図書館には、館内無線LAN接続サービスなど、卒業生の方もご利用いただけるサービスがございます。詳しくは、医学図書館Webサイトより<利用案内>をご覧ください。

<http://www.lib.m.u-tokyo.ac.jp/>